

# 令和5年度都市科学部運営諮問会議 令和5年度に係るコメント集計結果

## 【1】都市科学部における学生の受入れ

1. 適切に学生受入が実施され、入学定員と実入学者数との関係が適切でしょうか？

段階： 3. 2 5	①まったく適切でない ②不十分である ③適切である ④非常に適切である
---------------	-------------------------------------

コメント：

- 総合型選抜については合格者を厚くしており、時代に合った対応として評価できる。
- 志願者数、入学手続者数とも適切と見受けられます。都市社会共生学科の総合型選抜での合格者が他学科に比べて多いようですが、定員充足率で見れば妥当であると見受けられます。
- 建築学科と都市基盤学科の第2希望廃止による志願状況の変化等、影響について、実際にはどうであったかを知りたい。

## 【2】都市科学部における教育

1. 都市科学部の特色が反映された教育が行われているでしょうか？

(1) ①グローバルとローカルの接点としての大都市、②リスク共生、③イノベーションを重視した教育が行われているでしょうか。

段階： 3. 5	①まったく行われていない ②不十分である ③行われている ④非常によく行われている
-------------	---

コメント：

- SDGsを題材とした授業の拡充等、先を見据えた教育が行われている。
- 都市科学A、Bの授業アンケートからも特色が反映された教育が行われていると感じられます。今後は若手教員の方も担当されるとのことで、一層多様な価値観に触れられる教育が展開されることが期待されます。
- 都市科学Bで今後は新たに地球温暖化リスクなども扱う方向とお聞きしたが、「都市科学A,B,C」は都市科学部の特色を反映した教育の基盤となっているため、アップデートを続けてより魅力ある内容にしてほしい。
- 良い取組の検証のためにも、学生へのアンケート実施方法や回収率アップへ向けて、引き続き検討・改善を進めてほしい。

(2) 分野横断型の教育が積極的に推進されているでしょうか。

段階： 3. 7 5	①まったく推進されていない ②不十分である ③推進されている ④非常によく推進されている
---------------	--

コメント：

- 地域課題実習が盛んで、学生同士で学部を超えたコミュニケーションを図ることができる。
- 都市科学シンポジウムなどで多分野での災害想定が行われていることは、まさに分野横断型の教育だと考えられます。ますますの進展を期待しております。
- シンポジウムやプロジェクト型の教育など、工夫しながらよく推進されていると思う。卒業時のアンケート調査の「22.都市科学部の一員であるという意識を持っている」の結果がより向上することを期待したい。

(3) グローバル人材の育成に積極的に取り組んでいるでしょうか。

段階： 3. 5	①まったく取り組んでいない ②不十分である ③取り組んでいる ④非常によく取り組んでいる
-------------	--

コメント：

- ソクラテスプログラムの導入により、日本と外国の架け橋となる人材の育成が期待できる。
- コロナの事情も好転し、海外との交流も盛んに行われておられるように感じられます。気になるのは「海外に行く場合の学生さんの経済的負担」でしょうか。これは日本全体の課題であると思われます。
- 留学生等の受入や海外との交流機会なども多く、よく取り組んでいると思う。ただし、卒業時のアンケート調査では「9.適切な言語やメディア等を駆使し、グローバルに発信する能力」の結果が最も低い。一部の学生のみ積極的な可能性もあるため、都市科学部の学生全体のグローバル化が向上するような取組も期待したい。

(4) かながわ・ヨコハマをフィールドとした実践的な教育に積極的に取り組んでいるでしょうか。

段階： 3. 5	①まったく取り組んでいない ②不十分である ③取り組んでいる ④非常によく取り組んでいる
-------------	--

コメント：

- 人流・まちづくりについての取組みについて、実現性を高めていきたい。
- 大学周辺の模型の作製、防災まちあるきなど順調に進められているように思います。神奈川県、横浜市の規模が巨大ですので、さらなる期待が寄せられるようにも思います。
- 「羽沢横浜国大駅周辺とキャンパスを都市科学する」プロジェクトの大型模型は素晴らしいです。地域連携活動や地域課題実習を今後も大切にしていきたいです。

(5) フィールドワーク（含むオンライン）を取り入れ、理論と実践の接合をしているでしょうか。

段階： 3. 7 5	①まったく接合していない ②不十分である ③接合している ④非常によく接合している
---------------	---

コメント：

- 学外活動報告の徹底・共有ができると、活動の質も上がると考えられる。
- 現場見学会の実施や周辺市民の方との交流など、盛んに行われているように感じます。貴学部の根幹をなす活動と思われるので、今後もさらに継続していただきたいと思います。

### 【3】その他

1. 教育課程に対応した設備・施設等が十分整備され適切でしょうか？

段階： 3. 0	①まったく適切でない ②不十分である ③適切である ④非常に適切である
-------------	-------------------------------------

コメント：

- 講義を行う上で必要な設備を計画的に導入し、教育環境を整えている。
- 都市科学A、Bの授業アンケートで設備の改善を望む声の一部に見受けられますが、対応方針が示されており素晴らしいと思います。今後も継続的な整備が期待されるかと思います。
- 特色が反映された良い取組である「都市科学A、B、C」に関して、授業アンケートの中で、学生から指摘があった点（二つの教室をズームでつないでの授業による音声トラブルなど）は改善してあげてほしい。

2. 財務基盤は適切でしょうか、また、管理運営体制（事務組織も含む）が適切に整備されているでしょうか？

段階： 3. 0	①まったく適切でない ②不十分である ③適切である ④非常に適切である
-------------	-------------------------------------

コメント：

- 重点項目を定めて削減に努めている点を学生にも周知できると尚良い。
- 財政基盤も安定されていると見受けられます。今後は光熱費の高騰や施設の維持費など様々に難しい問題が生じてくるようにも思われます。これも日本全体での悩ましい問題と思います。

3. 外部評価の体制が整備され、機能しているでしょうか？

段階： 2. 7 5	①まったく機能していない ②不十分である ③機能している ④非常によく機能している
---------------	---

コメント：

- アンケートについて実施時期や方法の見直しを行い、回収率の向上を図りたい。
- 本運営諮問会議でも毎回丁寧な資料とともに十分な説明がなされており、質問にも真摯な回答を行っていただいております。

4. ダイバーシティに配慮した取り組みを行っているでしょうか？

段階： 3. 7 5	①まったく行われていない ②不十分である ③行われている ④非常によく行われている
---------------	---

コメント：

- 講義だけでなく、学部プログラムとして推進が成されている。
- 学生さんや先生方の様々な活動から、このことが大いに進められていることを感じています。
- ジェンダーや共生に関する授業も豊富だと思う。また、LGBTQに配慮したトイレに関する研究プロジェクト等も様々行われているとお聞きした。まさに都市科学部の特色を生かしたダイバーシティに配慮した取組といえるので、もっとアピールしてもよいのではと感じた。

全体を通して、ご意見・ご提言がございましたら、ご記入をお願い致します。

○学生の「自ら選び取る力」の養成については、大学側が選択肢を沢山設けること以外に、学生自身が本当にやりたいこと・得意なことは何かを考え、探究していく機会が必要と考える。課外活動等を拡充し多様な人との交流機会を増やし、学内だけでは得られない学びの場を提供していただきたい。

○毎回、丁寧な資料をご用意いただき、ありがとうございます。私自身は「紙の資料はすごくありがたい」と思う性質なのですが、昨今の世情に鑑みますと、いくらか少なくしていただいてもいいかと感じました。職員の皆様の手間をかえって増やすつもりはございませんが、ご検討いただけましたら幸いです。

○教員と学生が議論して創り上げた「都市科学部カリキュラムコンセプト」はとても良い取組と感じた。学生及び教員に、都市科学部のアイデンティティを高めて、よい教育及び学びを実践していただきたい。